

一 地域の歴史

郷土史	郷土を愛し、郷土の歴史を掘り起こす
地方史	中央の歴史に対し、地方の歴史の姿を明らかにする 民衆の立場
地域史	様々な地域のあり方を通じて、歴史の全体像に迫る
分野史	国家史・政治史・経済史・社会史・文化史・建築史・ジェンダー史など
時代史	時代ごとに歴史の姿を探る 時期区分の問題、百年ごとの区切り

二 地域を把握する視点

空間・身体・環境から中世史を考える。五味『躍動する中世』（小学館刊）

A 地域の空間

① 権力

中世には権力が統合されておらず、分権化の傾向が著しい。古代の律令国家における権力統合が弛緩し、中央では寺社や権門が独自の組織を形成して分立する状況が生まれ、各地には自立した拠点をもつ地域権力が形成された。中央集権に対する分権

② 自力と他力

人々が権力に頼らず、自力による救済を求めた。中世の権力は生命や権利を全面的に保障する存在ではなく、人々は権利や生命を自らが守らねばならなかった。訴訟を起こす際にも、権利を裏付ける証拠の文書は自らが提出する必要があった。それだけに権力はその存在の意味を常に問われたので、民衆を慈しむ撫民を心がけ、徳政を実施したが、強訴や一揆の力、神仏の力などが動員され、それらへの対応に苦しんだ。

③ 社会関係

イエを媒介にした多様な人間関係や社会が形成された。貴族や武士、庶民など様々な身分の諸階層にイエが形成されたが、そこでは主従関係を柱にしつつも、それには限らず、イエを媒介にしながら様々な人間・社会関係が形成された。

B 地域の身体

④ 表現

多くの人々が歴史の舞台に登場し、多彩な活動を繰り広げるようになり、その存在が政治的・経済的に力を持ち、政治や経済・文化などを動かすようになった。しかもその姿や活動が文学・絵画作品にも表現されるようになった。

⑤ 信仰

様々な面で神仏への信仰を根底に有し、疫病や飢饉が常に襲ってくるなか、神仏への信仰が広がって民衆にも及び、神仏にひたすらすがる他力による救済を求める動きや、逆に自力による救済へと進む動きがあった。この神仏への信仰の広がりが文学や美術、芸能などの文化活動を盛んにし、人々の精神世界を豊かなものにした。

⑥ 共同体

内的・外的交流を経て、各地に村や町などの地域社会が形成され、今日の地域社会の原型がつけられた。日本という領域には入っていないながら、独自の交易世界を築い

た北の蝦夷地の社会や、貿易国家を形成していった琉球の社会も形成された。

C 地域の環境

⑦ 気象

中世社会は十五世紀の小氷期を経て、戦国の動乱から統一政権構築の道をたどってゆく。中世社会の1の特徴としてみた分権的社会から、集権的社会を形成してゆくことになる。そのために権力は、5の神仏の力を封じ込め、2の自力による救済を克服する必要があった。戦乱を経て「平和」をもたらすべく動いていった。

⑧ 技術

新たな技術に目を向けるようになり、技術を習得し、開発していった。戦国期の技術躍進。軍事力・土木技術・綿花栽培。

三 多様な史料の特質を探って、その史料批判を踏まえつつ地域の力を探ってゆく。

五味『日本の中世を歩く』（岩波新書）

① 熊野三山	今様	② 宇治	供養願文
③ 平泉	平泉寺塔注文	④ 厳島	神宝
⑤ 博多	平家物語	⑥ 鎌倉	吾妻鏡
⑦ 浅草	縁起	⑧ 菅生	一遍聖絵
⑨ 萱津	紀行文	⑩ 足利	宣教師の報告
⑪ 上ノ国	由緒書	⑫ 今帰仁	歴史書

四 大阪を例にした地域史の実践

五味雑誌『UP』連載

① 大阪府南部には数多くの溜池がある。大阪狭山市の狭山池は七世紀に敷葉工法という先端技術で造られ、奈良時代になると、行基によって整備され、中世には重源により改修され、さらに近世には片桐且元が改修にあたるなど、先端技術が用いられてきた。その技術の推移は大阪府立狭山池博物館の展示からわかる。土木史という視点。行基と重源はともに東大寺大仏の造営にも関わっており、片桐且元は大坂城を始めとして多くの土木工事に関わった。溜池の土木は多くの土木事業と深く関係する。

② 大阪府の摂津・河内・和泉（摂河泉）の地域では、巨大な土木事業が古くからなされてきた。堺の百舌鳥古墳群、その東方八キロメートルのところにも古市古墳群があるなど、日本最大級の古墳群が存在する。これら古墳の周囲には環濠があり、溜池の土木と密接な関係があることは疑いない。その百舌鳥古墳群のうち、日本最大の前方後円墳・大山古墳は五世紀中ごろの築造と推定され、仁徳天皇陵として伝承されてきている。

大山古墳の南にある堺市博物館では百舌鳥古墳群を展示し、続いて行基の展示。大鳥郡蜂田郷の家原里（堺市家原寺町）に生まれた行基は、狭山池を修築し、堺市草部の鶴田池を造るなど、広くこの地の土木事業に関わった。行基の展示に続いて、中世の自由都市としての堺。堺の形成と発展においても土木技術は大いに関係している。環濠都市の形成と国際貿易港の造成において、先端技術が導入されたのである。

③ 狭山池が造られた七世紀には、大阪市の上町台地に難波宮が造営されている。大化元年（六四五）の大化の改新を契機に孝徳天皇が難波に営んだ難波長柄豊碇宮や、聖武天

皇が神亀三年（七二六）に造営を開始した難波宮。大坂城のすぐ南の法円坂一帯。大阪市立博物館の存在。博物館の入口には大型の復元倉庫。五間×五間の建物十六棟の倉庫建物。時期は五世紀のもので、百舌鳥古墳群と同じ時期にあたる。難波には仁徳天皇の難波高津宮があったという伝承もあり、上町台地の東には今はない広大な河内池があって、その茨田堤や堀江の土木事業も仁徳天皇の時代に行なわれたという伝承がある。

- ④ 七世紀に建てられた難波宮は掘立柱、草葺屋根で造られたものであったというが、このモニュメントは瀬戸内海を経てやってくる人々を視野に入れてのものである。上町台地を南に少しゆけば、推古天皇元年（五九三）に創建された四天王寺、北にゆけばすぐに難波津の港湾に出る。この南北を基軸にしたラインが後の大阪の原型をなしている。中世には、この南北のラインが熊野古道として機能するようになり、蓮如がこの地に目をつけて明応五年（一四九六）に浄土真宗の石山道場を建てると、天文元年（一五三二）に証如が石山本願寺となして整備したことから寺内町として発展し、さらにその跡に入った豊臣秀吉が大坂城を築いて、ここに明確に近世の大阪が形成されることとなった。
- ⑤ 前期の難波宮は六五二年に完成したが、孝徳天皇の死とともに、六五五年に斉明天皇が飛鳥板蓋宮で即位し、天皇の宮は遷ったものの、難波宮はその後も維持され、六八六年に焼失するまではその機能は保たれた。この後すぐの六九〇年に大和に藤原京が造られたことを考えると、難波宮の在り方が藤原京にも大きく影響していたことがわかる。
- ⑥ 奈良時代に聖武天皇が藤原宇合に命じて難波京の造営に着手し、礎石建で瓦葺屋根の宮殿を造ると、天平十六年（七四四）にこの地に遷都したが、すぐに再び遷都があり、都は難波の地を離れるが、その後も難波宮のある摂津の地は重要な役割を担った。摂津職の設置。他の地域では国が設置されたのに対し、格上の「職」と称される官庁が置かれた。職は京に置かれた京職や、内裏の修理などを行う修理職など特別な任務を担う実務官庁で、長官は国守ではなく大夫と称された。その任務は難波宮の管理とともに、朝廷を直接に支える施設の整備にあった。
- ⑦ 大阪湾に面して摂津には住吉津と難波津の二つの港湾があった。摂津職はその名の通り、この京の外港を管理するとともに、大和から流れてくる大和川の治水事業を行なった。大和で多くの河川を集めて大阪平野に出た大和川は、北に流れて河内江に流れ込み、その河内江の水と淀川の水とがあわさったところに難波津があって、大阪湾へと至っていたから、その治水は重要な国家的課題。その大和川の治水に関わった人物が道鏡であり、道鏡を失脚させた摂津大夫和気清麻呂。清麻呂は延暦七年（七八八）に大和川を西に分流させる本格的な流路変更を試み、四天王寺の南付近を掘削する工事を行なった。それに先立つ延暦三年に桓武天皇は平城京から長岡京に遷都しており、その際に難波宮の大極殿などの建物は長岡京に移築され、翌延暦四年には淀川と三国川（安威川）を通じさせて神崎川が生まれ、瀬戸内海の物資はそこを通過して京にもたらされた。
- ⑧ 平安京の定着とともに大阪地域での国家的土木事業はなくなるが、国家に代わって土木事業を担うようになった人々が登場する。十一世紀の『新猿楽記』に描かれ、その姿が絵巻『粉河寺縁起』に登場する河内の讚良郷の長者に描かれている大名田堵。河内江を中心とする大江御厨という荘園を開発し、富を築いた農業経営者。摂津や河内に根拠地を占めるようになった源氏の武士が水上交通の拠点に進出してゆき、文覚の出た渡辺

党の武士たちも難波津の後身である渡辺津（天満橋近く）周辺に勢力を広げていった。
また摂津の大輪田泊の修築を行なった平清盛はついには摂津の福原に都を遷した。

- ⑨ 勸進上人の重源は渡辺津に別所を設けて、ここを勸進と土木事業の拠点となし、狭山池の修築などに関わった。この渡辺津に近接する窪津王子を出発点に四天王寺を経て南下する熊野街道が、熊野詣が盛んになるとともに整えられ、中世の大阪には海の道と陸の道の幹線が走っていた。そのため神崎や江口には遊女たちが集まり、熊野の王子には芸能者が集まった。この道を場として活躍したのが鎌倉末期からの「悪党」と称された武士たちで、その代表格が楠正成であり、彼らの力によって鎌倉幕府は倒された。
- ⑩ 日明貿易が始まると有徳人が成長し、兵庫や淀、堺などの港湾の土木事業が積極的になされて港湾都市が発展したが、その段階で上町台地に目をつけたのが蓮如。ここに本願寺が山科から移ってきて寺内町が整備された。しかし石山合戦でこの本願寺勢力を破ってその地を継承した豊臣秀吉が大坂城を築城し、町を大改造して、ここに近世の大阪の繁栄の基礎が築かれた。

五 各地の地域史

地域の力をいかに総合的に捉えるか。地域史と分野史の結合

大津	情報史	志賀の都、東国の交通の接点、馬借、城郭、芭蕉
津	災害史	津波 戦災 台風 公害
筑波	人物史	歌垣 徳一 将門 親鸞 忍性 天狗党
会津		
津軽		
佐渡		
金沢		